

生徒同士の意見交流を通して、言葉を磨くことのできる生徒の育成

豊田市立竜神中学校 文室 圭人

1 はじめに

本校では、朝読書の時間を設けており、多くの生徒が学校図書館を利用している。少しずつ読む本のジャンルが広がり、読書に親しむ生徒も多くなった。授業でも新しい文章を読むことを楽しみにしており、抵抗をもつ生徒は少ない。また、RTT(竜神シンキングトレーニング)の時間を設けてグループの中で意見交換を行っており、自分の意見や思いを伝え、相手の話を聞くことに対する土台が作られてきた。授業でスピーチを行う時にも少しずつ意欲的に活動する様子が見られるようになった。

しかし、文を書くことに抵抗をもつ生徒は多い。書くことについて事前に実施したアンケートでは「文を書くことが得意か」という設問に対して、「どちらかと言うと苦手」「苦手」と回答した生徒が全体のおよそ8割を占めた。以下がアンケート調査の結果である。

得意…1人 どちらかというと得意…5人 どちらかというと苦手…13人 苦手…11人

実際にクラスの様子を見ても、自分の考えたことを整理し文章にすることに慣れていないと感じた。体育祭の感想や定期テストの反省など、原稿用紙半分程度の文章を書く時なかなか筆が進まない姿が見られた。

「少年の主張」作文で、原稿用紙4枚程度の意見文を書く時には、それほど長い文を書けるのかと不安に感じている生徒が多い。まず、書くテーマを探すのに苦労する。テーマを見つけても、それをどのように構成して原稿用紙にまとめるか見通しが立たない。事前に調査したアンケートで「全体の構成を考えてから書くか」という設問に対しては、以下のような結果になった。

必ず考える…2人 考えることが多い…15人 あまり考えない…7人 考えない…6人

構成メモを書き、構成を考えて書くことがまだ定着していないと感じる結果であった。

さらに、「自分の書いた文章を読み返すか」という設問に対しては以下のような結果になった。

必ず読み返す…12人 読み返すことが多い…11人 あまり読まない 4人読み返さない…3人

見直しが不十分な清書も見られるのが現状である。丁寧な読み返しができておらず、主語述語のねじれがあるものや、同じ言葉が何度も繰り返されるものも多くあった。

以上のような生徒の実態を踏まえ、書くことに対する抵抗感を取り除き、自分の書いた文章をよりよくしようという意欲をもたせられる取組をしたいと考えた。

2 研究の仮説と手だて

めざす生徒像

自分の力で課題を見つけ、思いを表現することができる生徒

仮説 1

生徒が興味をもち、思いをもって向かう行事や総合的な学習と関連づけた単元を構想することで、より意欲的に文章を書く活動に取り組めるだろう。

仮説 1 に対する手立て

職場体験学習を生かした学習活動を設定する。

読み手に伝わる文章を書くためには、誰に向けて何のために書くのかを明確しておく必要がある。そこで2年生の11月に行う職場体験学習を活用することにした。さまざまな職場を知り、働く意義を考えたり、自分の将来について思いをはせたりして、職場体験を楽しみにする生徒が多かった。職場体験を行うにあたり、自分に関する履歴書、体験後のリーフレット、お礼の手紙など、文章を書く活動が増えてくる。本単元の学習では、職場体験先で働く方に向けて、自分のことをPRする文章を考えることで、伝える相手と明確な目的意識をもって書こうとする意欲を高められると考えた。そこで、職場の方に自分を知っていただくために、職場体験先に自己PR文を作るという活動を設定した。

仮説 2

モデル文や友達の書いた文章に触れることで、伝え方の工夫や文章の改善点に気づき適切な自己評価をすることができるようになるだろう。

仮説 2 に対する手立て

意欲的に文章を読み、工夫点を見つけられる活動を設定する。

どんな点を工夫すればよい文章になるか生徒自身が見つけるためには、モデル文や友達の書いた文章を分析する必要がある。そのためには読みたいと思えるようなモデル文を作る必要があると考えた。そこで、生徒になじみのある先生に自己PRのモデル文を書いてもらった。また、どの文章が一番相手に伝わるか友達同士で評価しアドバイスし合う場を設定することで、意欲的に文章を読もうという意欲につなげることができると考えた。

抽出生徒

生徒 A 学習の感想や生活日誌などを欠かさず書く習慣がついている。全行を使って自分の思いを書こうとしており、学習に対してとても意欲的である。しかし、語彙が少なく、同じ言葉の繰り返しが多くなってしまい、書くことに苦手意識をもっている。これまで自分の書いた文章を読み返さず、より相手に伝わる文章を読む機会も少なかったので、原稿の相互評価を通してよりよい文に触れ、書くことに自信をもてるようにしたい。

生徒B 構成を考えて書いたり、自分の文章を読み返したりする習慣がついている。書くことは得意で、出来事や自分の思いなどを細かく書くことができる。ただし、人一倍丁寧に書こうとするあまり、授業中に友達が書いた文章をじっくり読むことまで手が回らない。原稿の相互評価を通して友達の文章を読み、友達に有効なアドバイスができるようにしたい。

単元構想

| 時 | 学びのステップ ・ 学習内容 |
|---|--|
| 1 | Step I 見つける【いいとこ発見自己PR文】 <ul style="list-style-type: none"> 自己PRのモデル文を読み、それぞれの文のよいところと改善点を探す。 |
| 1 | Step II 見通す【あなたのよいとこ見つけてね】 <ul style="list-style-type: none"> 個別学習で自分のよいところを考える。 自分のよいところを友達にインタビューする。 |
| 2 | Step III 調べる【目指せ採用！自分をプロデュース！】 <ul style="list-style-type: none"> 前時で発見した自分のよいところをもとに、構成メモを書く。 400字から600字の原稿を書く。 誤字、脱字、分かりにくいところがないか推敲する。 |
| 1 | Step IV まとめる【あなたが社長！一番採用したいのは誰だ？】 <ul style="list-style-type: none"> グループに分かれて書いた文章を読み合い、工夫点や改善点を話し合って相互評価する。 |
| 1 | Step V 振り返る【職場体験学習の履歴書を清書しよう（総合の授業で実施）】 <ul style="list-style-type: none"> 学習を振り返って自己評価を行い、履歴書を書く。 |

3 研究の実際

(1) 自己PRのモデル文を読み、文章の工夫を見つける。

資料1 先生の作成した自己PRモデル文1

僕の良いところは、二つあります。…①

一つは、みんなの前で話す時、大きな声を出せること…②です。僕は背が低い方です…③。けれども、お腹から大きな声を出してみんなを元気にする力があると思っています。授業中に発言する時や体育祭で友達を応援する時には思いっきり声を出します。僕の声で、みんなが元気になってくれると、とてもうれしいです。

もう一つは、興味のあることをとことん追究すること…②です。僕は、天気の変り変わりに興味をもっています。自分で空を見たり本で調べたりするだけではもたたりませんでした。もっと深く具体的に知りたいという気持ちがわいてきて、気象予報士の資格を取ろうと決めました。一年半、学校の課題プラス気象の勉強を毎日少しずつ続けて、資格を取得することができました。…④

周りの人を元気づけたいという思いをもって声を出すこと。一つのことを深く追究するために努力すること。その自分のよいところをもっと伸ばしていけるように行動していきたいと思っています。

導入では、職場体験に向けて事業所の方に自分のことを知ってもらうために、自己PR文を作成することを伝えた。誰に向けて何を伝えるかを明確にすることで、相手意識をもち意欲的に活動に入ることができると考えた。

ほとんどの生徒はどのように自分をアピールすればよいのか悩んでいた。そこで自己PRのモデル文を読むことから活動をスタートした。まず、PR文作成への意欲を高めるために、生徒になじみのある先生方にモデル文の作成をお願いした。生徒は様々な先生の長所や知らなかった努力を知り、「自分だったらどのような面をPRできるだろうか」と反応を示しており、PR文を書こうとする気持ちが高まったことが伺えた。

また、モデル文から自己PR文を作成するときのポイントを読み取る活動を行った。生徒は資料1のモデル文から以下のような作成のポイントを読み取った。

- ①「最初にPRポイントがいくつあるか書いてあること」
- ②「□で囲むなど注目してほしいところを目立つように書いてあること」
- ③「短所も正直に書いてあるが、それを克服したことが分かること」
- ④「どんな努力をしているか具体的に分かること」
- ⑤「一文が短くまとまっていること」



モデル文から書くときのポイントを探る生徒の様子

(2) 自分のよいところを見つけよう。

自己PR文を書く材料を集めるために、自分の長所を見つける活動を行った。まず、思考ツールウェビングマップを使い、自分の特徴をできるだけ多く挙げた。しかし、多くの生徒は自分の長所についてじっくりと考えたことがなく、材料集めに困っている様子が見られた。逆に自分の短所に目が行ってしまい、自分をどうPRするか悩む状態だった。

そこで、短所を長所に変換できる表を用意した。なかなか自分の長所を見つけられなかった生徒も、自分の短所が長所の裏返しであり、長所となることに気づき、集中して言葉を考えることができた。

資料2 長所から短所への変換表

| | 短所 | 長所1 | 長所2 | 長所3 | 長所4 |
|---|---------|---------|--------|-----------|----------|
| お | 臆病 | 慎重 | リスクに敏感 | 用心深い | きちんとしている |
| | おこりっぽい | 感情豊かな | 反応が早い | 情熱的な | 正義感が強い |
| | おしゃべりな | 社交的な | 物怖じしない | 活発な | 頭の回転が速い |
| | おせっかいな | 親切な | 物怖じしない | 気が利く | 優しい |
| | 落ち込みやすい | 真面目に考える | 感受性が強い | 自分自身に謙虚 | 深く物事を思う |
| | 落ち着きがない | こまめに動く | 行動が早い | 活動的で元気がいい | 労を惜しまない |

さらに、自分では気づけなかった長所を発見できるように、友達に自分のことをインタビューする場を設定した。抽出生徒Bは友達に対して長所をたくさん伝えることができた。聞いていた友達も教えてもらった自分の長所に喜んでおり、充実した交流を行うことができた。

(3) 職場体験に向けて自己PR文を書こう。

次に、前時で見つけた自分のよいところをもとに、自己PR文の構成メモを書く活動を行った。事前に実施したアンケートでは、文章を書き始める前に全体の構成を考える生徒

は、学級の半数程度しかいなかった。そのため、生徒たちができるだけ書きやすい構成メモを工夫する必要があった。構成は資料4のように設定し、内容と字数を意識しながら書けるようにした。

構成メモをもとにして生徒はPR文の下書きを作成した。全体の字数は400字から600字とした。下書きに苦労する生徒もいたが、事前に書くための材料を集め、構成メモを書いておいたため、普段の作文よりもスムーズに書き始める生徒が多かった。読み返す際のチェックリスト(資料5)も用意して、各自で推敲する時間も確保した。

生徒たちは、一文一文を見直し、主語と述語の分かりにくい言葉を換えたりして自分で念入りに書き直しをしていた。

資料4 構成メモの内容

- はじめ-自分をPRする言葉(50~100字)
- なか1-自分のよいところ1(150~200字)
- なか2-自分のよいところ2(150~200字)
- おわり-体験に書ける意気込み(50~100字)

資料5 読み返すときのチェックポイント

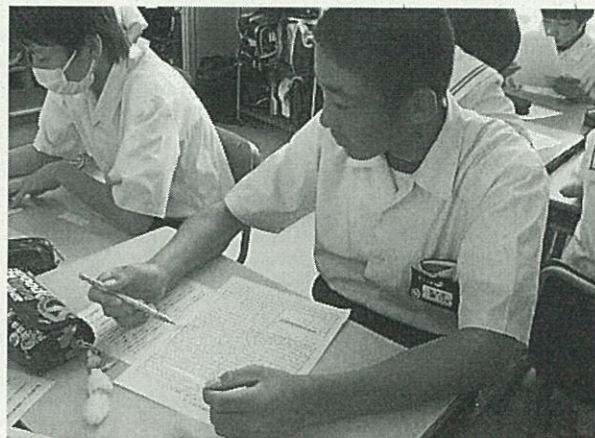
- 字の間違いはないか
- 句読点は適切か
- 長すぎる一文はないか
- 主語と述語は対応しているか

(4) あなたが社長！一番採用したいのは誰だ？

多くのPR文に触れ、それぞれの良さを見つけられるように、友達の書いたPR文を評価し合った。読み手意識をもたせるために、「もし自分が社長の立場だとしたら、最も採用したいと思うPR文はどれか」を考えさせる活動を設定した。

PR文を読む際に、評価の観点を示したワークシートを提示した。どんな点を意識して評価するか観点を明確にすることで、適切な評価ができるようにした。また、評価の際には付箋を使ったKJ法を用いた。二色の付箋を使用して、良いと思ったところは赤色の付箋、改善すべきところは黄色の付箋に書き込みを行い、友達のPR文に貼りつけた。

友達のPR文を読む様子



抽出生徒Bは友達のPR文をじっくりと読み、よい点や改善点を書いていた。いつも自分が文章を書くだけで終わってしまい、友達の文章を読んで改善点を伝える事ができなかったが、付箋を使うことで相手に自分の意見を伝えることができた。(資料6)

資料6 Bの自己PR文(抜粋)

(私のPRポイントは)いろいろな事に前向きに取り組む「積極性」があるところです。誰もやらない仕事に進んで手を挙げたり、行事やクラスの係でも、一度もなかったことがないやつや大変そうな仕事がある係になってみたりと、やってみようという気持ちをもって常に行動しています。

改善後

(私のPRポイントは)いろいろな事に前向きに取り組む「積極性」があるところです。人が行わない仕事に進んで取り組んでいます。また、行事も仲間と協力して行えるように実行委員として活動しました。やってみようという気持ちをもって常に行動しています。

資料7 Aの自己PR文(抜粋)

僕は、人一倍明るく、元気なところが自分でも一番の取り柄だと思っています。なぜならいつも元気に楽しく明るくしているからです。自分でも元気は大切にしています。自分の元気の良さは、いろいろなところで生かしていると思います。

改善後

僕は、人一倍明るく元気なところが一番の取り柄だと思っています。自分が友達に元気に接していると、友達も明るくなるのが嬉しいからです。「元気」があるいろいろなことに挑戦できます。だから僕が大切にしていることです。自分の「元気」を職場でも生かしていきたいと思っています。

(5) PR文作成を振り返ろう。

最後に、自分のPR文作成を振り返って自己評価を行った。抽出生徒Aは友達につけてもらった黄色い付箋に注目していた。「自分が伝えたい大事なところが強調されている」ことや「具体例を挙げて書いている」ことが評価されていた。しかし、Aの授業反省を見ると、評価された点については書かれていなかった。書くことについて自信をもたせるには至らなかったものの、「全体の構成を意識して書けば、もっと分かりやすい文章が書けたと思う」と振り返りが書かれており、次に目指したいところがはっきりと分かった。

4 研究の成果

(1) 仮説1に対する成果

自分が決めた職場の方に自分をPRする文章を読んでもらうことで、生徒たちは意欲をもって活動できた。また、本単元の最後に、友達からのアドバイスを踏まえてPR文の清書を行った。今まで友達同士で書いた文章を読み合うことはあっても、校外の大人に自分の書いた文章を読んでもらう経験をしたことはなかった。自分が行く職場の方に読んでいただくということで、多くの生徒が「読み応えのある文章を書こう」と緊張感の中にも真剣に活動している姿が見られた。

清書した文章は、事前訪問の際、職場体験先で働いている方に提出した。体験先の方からは「これほどやる気を見せて来てくれる生徒は初めて」という反応がいただけた。このようなエピソードを生徒に伝えたことで、「やってよかった」と話す生徒が増えた。

(2) 仮説2に対する成果

モデル文を読む活動では、生徒に気づかせたいポイントを含めたモデル文と、改善点が含まれたモデル文の両方を提示した。今まで知らなかった先生の長所や努力などが分かり、生徒はモデル文をたいへん意欲的に読み込んだ。どんなことを工夫すれば読み手に自分の魅力が伝えられるか真剣に考え、活発な話し合いを進めることができた。

友達の書いた文章を評価し合う活動では、友達のPR文の良さを認める生徒の姿が見られた。また、一番相手に伝わるPR文を選ぶ活動を行い、それぞれのPR文の良い点を説明できるようにした。この活動を通して文章の工夫されている点に注目しながら読むことができるようになった。

5 今後の課題

今回の実践では、体験先に向けて自分のことをPRする文章を作成することで、相手意識と目的意識をもって書こうとする意欲を高めることができた。

モデル文を読む活動では、それぞれの文章のよいところを見つけることができた。「一文を短くすっきりさせる」ことや「大事な点を目立たせるように線を引いたり囲んだりすること」、「項目を立てて番号を振る」ことなどである。自分がPR文を書いたり評価したりする際にも、そのようなポイントに注目していた。ただし、表面的な工夫だけに注目している生徒もあり、文章の内容まで深く読めなかった生徒もいた。また、生徒同士のアドバイスではどうしても語彙力に限界があると感じた。今後は生徒同士で書いている内容を見直す際に、読み手に自分の思いがより伝わる言葉をじっくり考えさせたいと思う。